

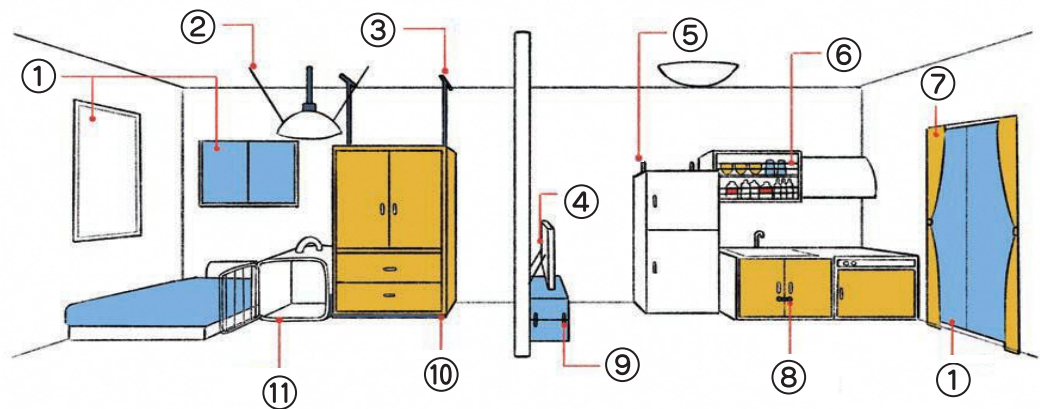
ペットのための災害対策

中央区福祉保健部生活衛生課生活衛生係

！家の中における災害対策

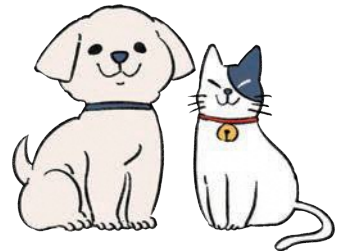
区では災害時に自宅が安全な場合は、在宅避難をお願いしています。
ペットにとっても、災害時に避難所ではなく、自宅で過ごせる方が負担は少なくなります。
自宅の安全性を確保するため、家具が転倒しないように、家具を固定しておきましょう。

- ① ガラス飛散防止フィルム
- ② 吊り下げ式照明器具の補強
- ③ ポール式器具
- ④ TV転倒防止具
- ⑤ 家具転倒防止具
- ⑥ ビン類落下防止具
- ⑦ 防災カーテン
- ⑧ 開き扉ストッパー
- ⑨ 家具連結金具
- ⑩ ストッパー式器具
- ⑪ ケージ又はキャリーバッグ
(何かあったら逃げ込むようにしつけておく)



その他に、以下の準備も必要です。

- 避難所や避難経路の確認
(自宅の住所に応じて対象となる避難所のペットの受入可否も含めて)
- 家族間の連絡方法や集合場所、ペットの対応の仕方の共有



！ペット用防災用品の備蓄・準備

災害時、ペットの水やフード、ケージなどの必要なものは、それぞれの飼い主が責任を持って用意してください。

重要 ▶ 区ではペットのための備蓄を行っていません！

<p>水及びフード ※最低3日分、できれば5日分。</p>	<p>ケージ又はキャリーバッグ ※入るトレーニングもしておきましょう。</p>	<p>トイレ用品 ※トイレシート、猫砂、新聞紙など。</p>	<p>常備薬及び療法食 ※災害時には特に手に入りにくいです。</p>	<p>ペット写真 ※携帯電話にも保存しておきましょう。</p> <p>飼い主と一緒に写っているもの</p>
--	--	---	---	--

食器 首輪 リード(犬) 鑑札・注射済票(犬) マイクロチップの登録証明書 ダンボール
健康の記録(ワクチン接種、既往歴などを記載したもの) おもちゃ 洗濯ネット(猫)



ペットのしつけと管理



しつけ

災害時は、日頃からのしつけが特に重要です。他者に迷惑をかけず、また、ペットがストレスをためないために、生活環境が変わっても飼い主がペットをコントロールできるよう準備しましょう。

犬の場合



- 「待て」「伏せ」などの基本的な号令に従う
- ケージ等に嫌がらずに入る
- 決められたトイレで排泄する
- 無駄吠えをしない
- 他者や他のペットを怖がらない

猫の場合



- ケージ等に嫌がらずに入る
- 決められたトイレで排泄する
- 他者や他のペットを怖がらない

健康管理

他者に迷惑をかけず、また、ペットが体調を崩さないように、日頃からペットの健康管理に気を配りましょう。

- ノミ取りなどを行い体を清潔に保つ
- 狂犬病(犬)やフィラリアなどの予防接種を済ませておく
- 去勢・不妊手術を済ませておく
- 既往歴の確認や常備薬の準備を行い、かかりつけの獣医師に助言を得ておく

身元表示・登録

万一はぐれたときのことを考え、ペットが飼い主の元に戻れるように準備をしておきましょう。

- 首輪、鑑札・注射済票(犬)、迷子札の装着
- 区への飼養登録(犬)
- マイクロチップの装着及び登録
- ペット写真の撮影



その他



- 日頃から、飼い主の仲間作りをしておきましょう。一時預かりの相談など、災害時に助け合える心強い味方となります。
- 災害発生時は、まずは自身の安全確保を心がけるようにしましょう。飼い主が無事でなければ、ペットを守ることはできません。

重要 ▶ 区の防災拠点では、原則として大型犬との同行避難は受け入れられません。在宅避難又は親戚等に預けることを想定した準備をしておきましょう。

ペットとの同行避難について

区では現在、各防災拠点の避難所においてペットとの同行避難を受け入れられる体制を構築するため、「人の居住スペースとペットの保護スペースを分けること」「ペットの世話は飼い主自身が責任を持って行い、また飼い主同士が協力し合うこと」などの基本的なルールについて、各防災拠点運営委員会の皆様と検討を進めています。ペットとの同行避難の受入が可能な防災拠点であっても、ペットのための防災用品の備蓄は行っておりませんので、避難の際は必ず飼い主が責任を持って防災用品をご用意ください。